

韓国における献血の現状について

1. 学校における単位と献血の現状

(1) 高等学校

日本と同じように、献血の実施前に必要に応じて保護者の同意を得て献血を実施している。保護者は副作用を気にしているためである。また、祖母も孫の献血に否定的な方が多く、韓国赤十字社はシニア向けに献血の安全性等の情報提供を積極的に実施している。

単位との関係については、2010年に文科省が大学入試時の評価になるボランティア活動に献血ボランティアを加えることを公式発表した。これは、一回の献血で4時間分のボランティアとするもの。

この制度により高校生は大学入試のために献血をする。

(2) 大学・短大

多くの大学、短大において献血ボランティアを単位として認めている。しかしながら、法的には認められておらず、あくまでも学校側の裁量により決めている。

韓国赤十字社は、この制度について未導入の学校に積極的に導入を働きかけており、地域によっては、行政もインセンティブとして導入してもらえるよう働きかけている。

2. 学校における単位と献血の現状の問題点

インセンティブがあるために、問診に正しく答えない学生がいるという問題が起こっている。安全な血液製剤の確保のために献血はあくまでも善意のものということを訴えている。

3. 若年層に対するインセンティブ

献血に対するインセンティブとして映画やミュージカルへの招待をしている。